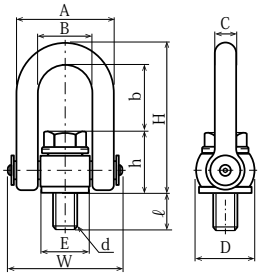
マルチアイボルト

※RoHS 指令対応品



NETIS 登録番号 KK-150017-VE
特許 NO、3606802 / 3868439

－特長－
- マルチアイボルトは、吊り上げ軸に対して360度回転し、吊り方向に対しても180度可動。
- 従来のJISアイボルトでは危険であった横吊り、斜め吊り、引き起し作業も安全に使用できる。
- 使用荷重はJISアイボルトの約3倍。サイズダウンにより対象物へのねじ穴を小さくできる。
- NETISによるVE（活用効果評価済み技術）評価認定に付き、使用者メリットが得られる。

規格寸法および在庫範囲

単位：mm

品　番	使用荷重 Ton（KN）	ねじの呼び (d)	A	B	C	D	ℓ	b	h	H	E	W	締付トルク目安（Kgf・m）	重量 (kg)	在庫
ME0808C	0.3 (2.94)	M8	41	25	8	28	11	33	30	71	24	50	0.8 ～ 1.5	0.18	○
ME1008C	0.5 (4.90)	M10	41	25	8	28	16	32	31	71	24	50	1.0 ～ 2.5	0.19	○
ME1210C	0.8 (7.85)	M12	50	30	10	32	21	40	38	88	29	62	1.5 ～ 4.0	0.35	○
ME1414C	1.2 (11.77)	M14	65	37	14	42	27	47	48	109	36	79	4.0 ～ 10.0	0.72	△
ME1614C	1.6 (15.69)	M16	65	37	14	42	27	47	48	109	36	79	4.0 ～ 10.0	0.75	○
ME1818C	1.8 (17.65)	M18	83	47	18	50	31	60	57	135	45	100	7.0 ～ 15.0	1.32	△
ME2018C	2.5 (24.52)	M20	83	47	18	50	31	60	57	135	45	100	7.0 ～ 15.0	1.38	○
ME2222C	3.1 (30.40)	M22	102	58	22	60	37	72	63	157	56	121	10.0 ～ 25.0	2.31	△
ME2422C	3.6 (35.30)	M24	102	58	22	60	37	72	63	157	56	121	10.0 ～ 25.0	2.38	○
ME2728C	4.8 (47.07)	M27	128	72	28	75	50	90	79	197	70	150	12.0 ～ 35.0	4.70	△
ME3028C	5.8 (56.87)	M30	128	72	28	75	50	90	79	197	70	150	12.0 ～ 35.0	4.90	○
ME3632C	8.0 (78.45)	M36	154	90	32	90	57	112	91	235	85	176	15.0 ～ 50.0	7.60	○
ME4236C	10 (98.06)	M42	176	104	36	105	67	130	109	275	100	200	18.0 ～ 60.0	11.80	○
ME4842C	15 (147.0)	M48	200	116	42	120	73	140	127	309	110	226	30.0 ～ 80.0	18.20	○

△印はご用命に応じます。　品番解説　例）ME1614C　⇒　ME＝（マルチアイボルトの略）　16＝（dねじの呼び）　14C＝（C 寸法）
ボルトのℓ寸法変更についてはご相談ください。製品の形状および仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

【使用上の注意】
- 2 個以上のマルチアイボルトを使用しての荷役の時は、吊り角度による張力増加係数を加味した使用荷重の範囲内で使用して下さい。また取付けに際しては、本品の座面と荷役物体の間に厚ワッシャ等をはさむ取付けは使用荷重を激減させるため保証ができません。
- 繰返しのご使用はできますが、金属疲労からの破損の恐れがありますので、使用の程度（負荷々重と頻度）に応じたお客様が定める定期点検を実施して下さい。
- 取付ボルトは定期取替え又は磁粉探傷検査等で亀裂検査を行うなど、安全を確認して使用して下さい。

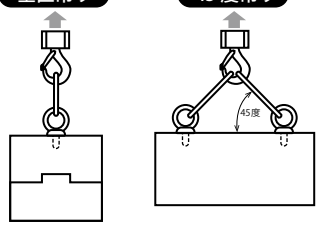
アイボルト・アイナット使用上の注意

アイボルト、アイナットは重量物の吊り上げに使用され、破損するときは大きな事故に結びつく恐れがあることから、JIS では「重要な保安部品」として取り扱われています。安全な作業には、使用荷重、取付け時、吊り上げ時に対して十分な注意が必要です。

＜使用荷重について＞

1 個による垂直吊り、2 個による 45 度吊りの使用荷重を確認し、その範囲内で使用して下さい。
M16 以上のアイボルト、アイナットには、ねじの呼びとメーカーの識別刻印が付きます。

垂直吊り　45 度吊り



45 度吊りは、アイボルト（アイナット）の座面が相手物と密着し、2個のリングの向きが左図のように同じ平面上で、真上から見た際に一直線（傾きは 5° 以内）になるよう設置のこと。

＜WLL と SWL の刻印について＞

上記の刻印が付いている製品がありますが、どちらも「使用荷重」を表します。（表示義務はありません）

WLL＝Working Load Limit
SWL＝Safe Working Load
JIS の改訂により、SWL から WLL へ表示方法が変更されました。
例）アイボルト　M16　WLL/0.45T　SWL/0.45T
どちらも垂直吊り 1 個での使用荷重が 450kgf（4.41KN）を意味します。

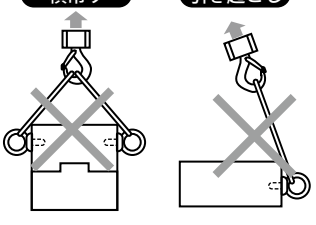
同様の表示がつく製品として、シャックルや吊りフックなどがあります。

安全作業に関する注意事項はメーカーカタログなどを参考にして下さい。

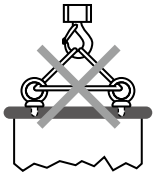
＜取付け時の注意＞

- 吊り上げ対象物の側面に取付けての横吊り、引き起こし荷役は破損事故の原因となり危険です。
- 経年劣化による疲労具合、使用履歴がわからないアイボルト、アイナットの使い回しは避けてください。

横吊り　引き起こし



横吊り、引き起こし、斜め吊りには「マルチアイボルト」をお勧めします。
また、横吊り専用に開発されたメーカーオリジナル品の「横兵衛」はご用命に応じます。

＜吊り上げ作業時の注意＞

- 2 個のアイボルト又はアイナットを使用して吊り上げる際は、左上図のように 2 個のリングの向きが同一平面内にならない場合には、ざぐりなどを施して下さい。
- 右図のようなタスキ掛けは危険です。リングに通すワイヤーロープやチェーンは必ず 1 個に付き 1 本を用いて下さい。
- 急激な地切りは非常に危険です。吊り上げ物の重量に吊り上げる加速度が加わると使用荷重にかかわらず破損の原因となります。